

局地的大雨に関する WEBアンケート調査結果 (参考資料)

平成21年2月12日

気象庁総務部民間事業振興課

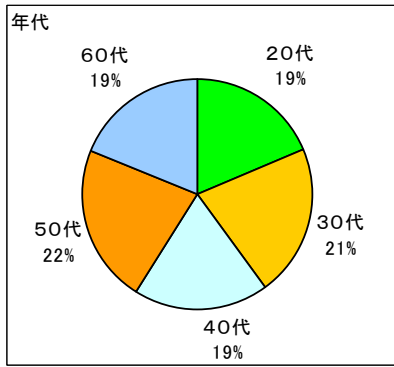
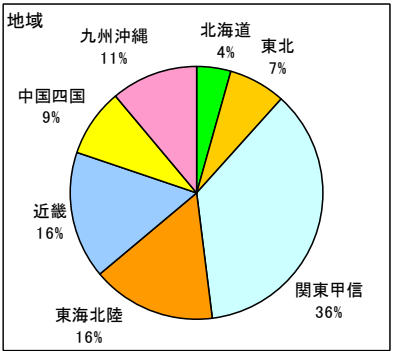
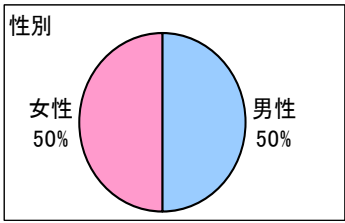
回答者のプロフィール(1)

局地的な大雨に関する認識度を把握するため、webを通じてアンケートを行う、いわゆるweb調査を行った。これは、登録されているモニターにアンケートを依頼し、調査に応じたモニターがwebを通じて回答し、一定の回答数(今回は男女各千人)に達したところで締め切るというものである。回答者の性別、居住地、年齢層の属性は、日本の人口構成とほぼ一致させている。

このような調査では、回答者がほぼインターネットの日常的利用者であることなどから、郵送調査など既存の社会調査に比べ、回答者の属性に偏りが生じやすいことが知られている。今回の調査では、インターネットに比較的習熟している利用者層の傾向を把握することを目的としているので、大きな問題にはならないと考えている。

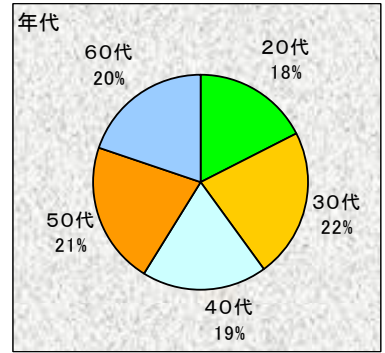
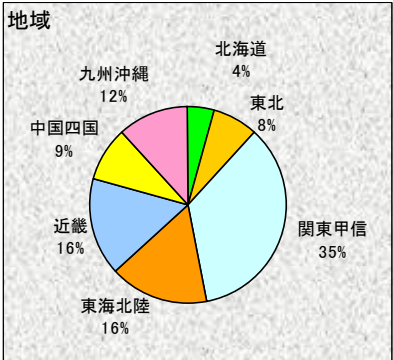
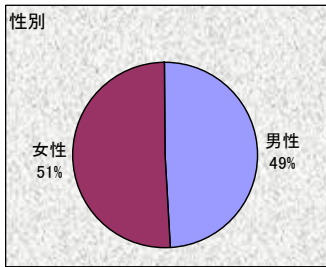
依頼メールは、2009年1月16日に配信し、1月23日に有効回答数が2001件に達したため締め切った。なお、選択回答は全て回答を記入しないと次のページに進めない仕様にしており、「無回答」は存在しない。

今回調査対象



日本の人口構成

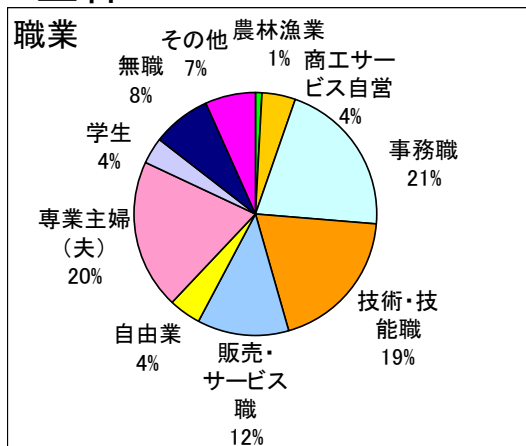
(総務省HP 住民基本台帳に基づく人口・人口動態及び世帯数(平成20年3月31日現在)より)



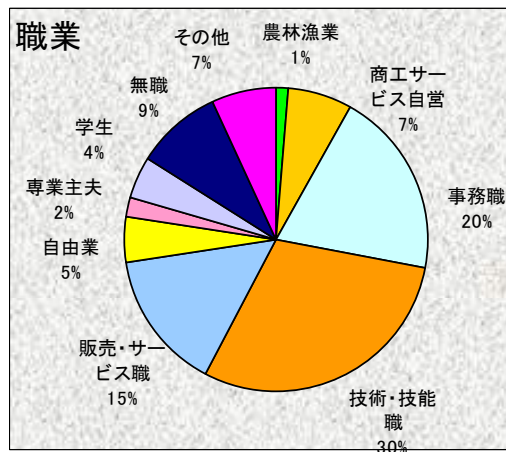
回答者のプロフィール(2)

回答者の職業は、事務職、技術・技能職及び専業主婦(夫)がそれぞれ2割となっている。女性の約4割を専業主婦が占めている。天候の影響を受けやすい第一次産業従事者は少数である。

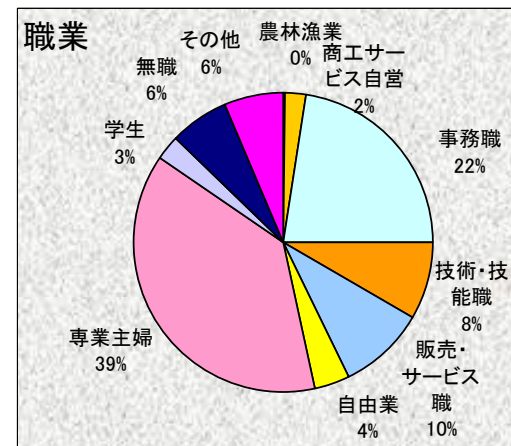
全体



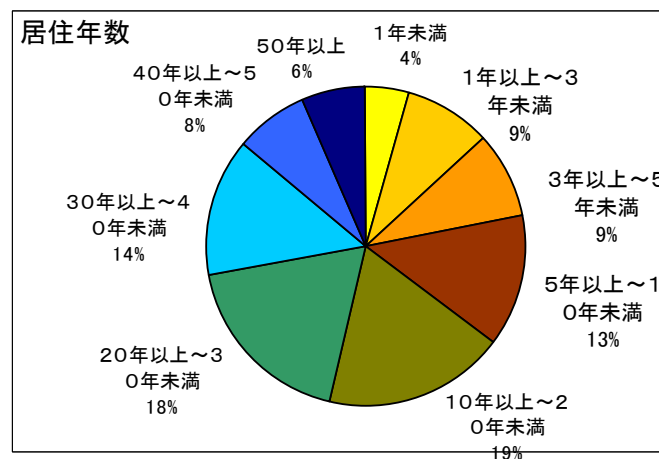
男性



女性



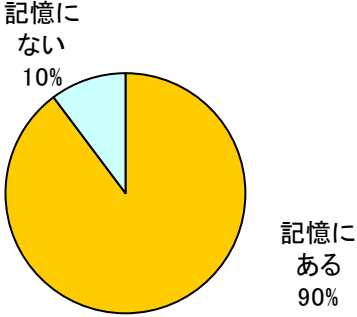
現在の居住地での居住年数は、8割が5年以上である。



調査項目：昨夏の事故の記憶

昨年（平成20年）、兵庫県神戸市都賀川の親水公園（河川等の水辺に親しむために設置された公園）で遊んでいた子供たちや、東京都豊島区で作業を行っていた下水道工事関係者が流されて尊い命を失うなど、突発的な非常に激しい雨による増水で、痛ましい事故が発生しました。このような事故が発生したことをひとつでも記憶されていますか。

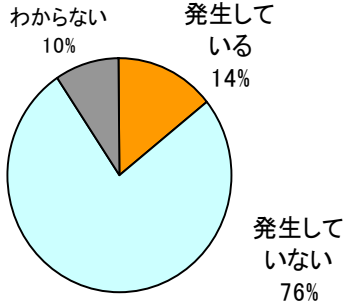
昨夏の事故の記憶



調査項目：居住地での被害発生状況

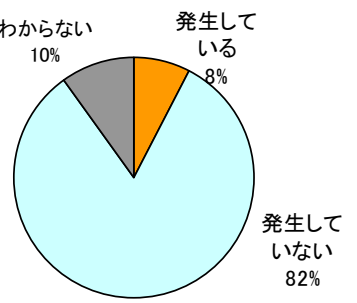
現在あなたのお住まいの地域で、大雨による洪水や土砂崩れなどによって、人や建物などに被害が発生していますか。

身近での洪水・土砂崩れ被害発生状況



現在あなたのお住まいの地域で、大雨による急な増水により、川で人が流されるなどの被害が発生していますか。

身近での流され事故発生状況

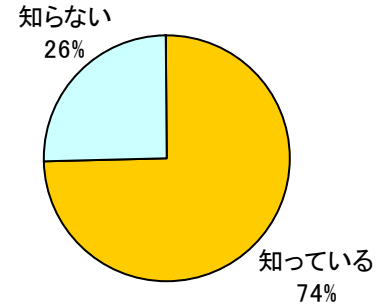


昨年の局地的大雨による事故例について「記憶している」と回答したのは9割。多数の方が、大雨による被害は身近で発生していない、と回答している。

調査項目：局地的な大雨をもたらす気象現象に関する認知度

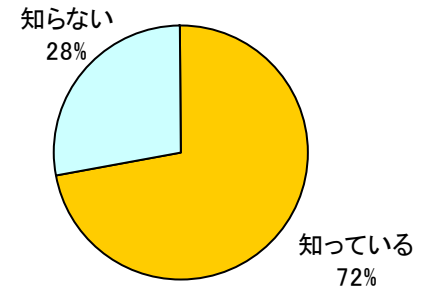
「局地的な大雨」は、晴れているのに、突発的に非常に激しい雨が降るということをご存知ですか。

局地的大雨の認知度



「局地的な大雨」が起こりそうなきには、その前に、真っ黒い雲により空が急に暗くなる、雷が鳴る、急に寒くなる、突風が吹くなど、多くの場合、身の回りの気象に変化が起こるということをご存知ですか。

局地的大雨の前兆の認知度



局地的な大雨の現象自体を正しく理解しているという回答は7割。

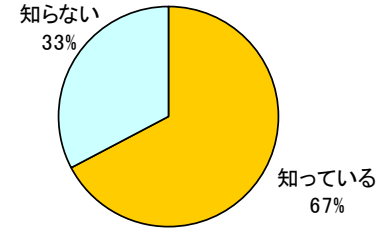
調査項目：局地的な大雨に注意を呼びかける気象情報

「局地的な大雨」が起こりそうなときには、その日の朝や前日の天気予報で、「大気の状態が不安定なため、急に雨が強まることがあります」「水辺などで急に増水するおそれもあります」などと解説しています。このことをご存知でしたか。

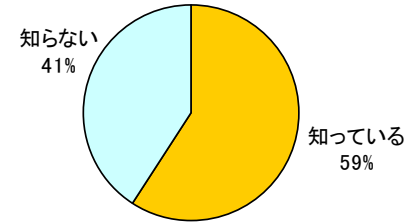
落雷に注意が必要な状況となった時には、雷注意報が発表されます。このような時は、突風や急な強い雨にも注意が必要だということをご存知でしたか。

「局地的な大雨」が起こりそうなときには、その前に大雨注意報や大雨警報が発表されていると思いますか。

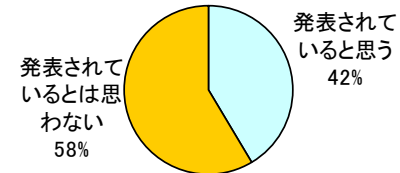
「大気的不安定」の認知度



雷注意報における注意喚起の認知度



「局地的な大雨」に対する注警報への認識

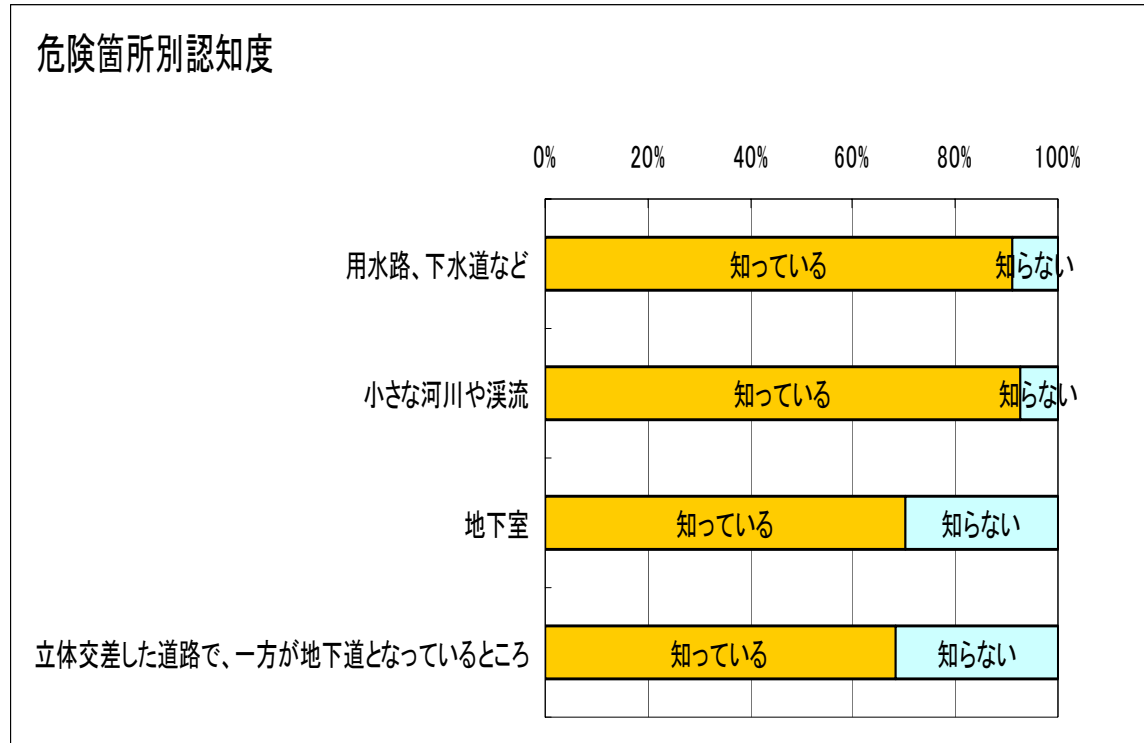


気象庁の発表する情報への認知度は6～7割。

「局地的な大雨」の前に必ずしも注意報警報が発表されているとは限らないが、4割が「局地的な大雨の前には注警報が発表されている」と回答。

調査項目：局地的な大雨に注意を要する場所と安全行動

「局地的な大雨」が発生した場合、次にあげるような場所は、雨水が一気に流れ込んでくることにより、危険性が急に高まると言われています。そのことをご存知ですか。

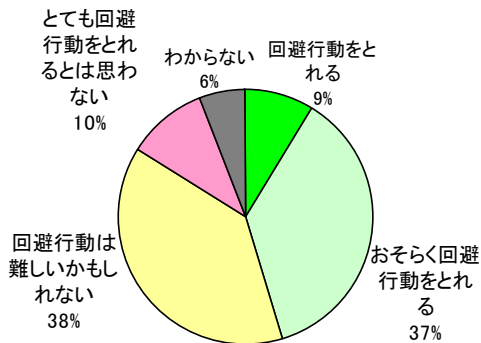


用水路、地下室等において、局地的な大雨により危険性が高まることを7割以上が知っている。ただし、用水路、小さな河川に比べ（9割）、地下室、アンダーパスは認識度が低い（7割）。

調査項目：局地的な大雨に注意を要する場所と安全行動

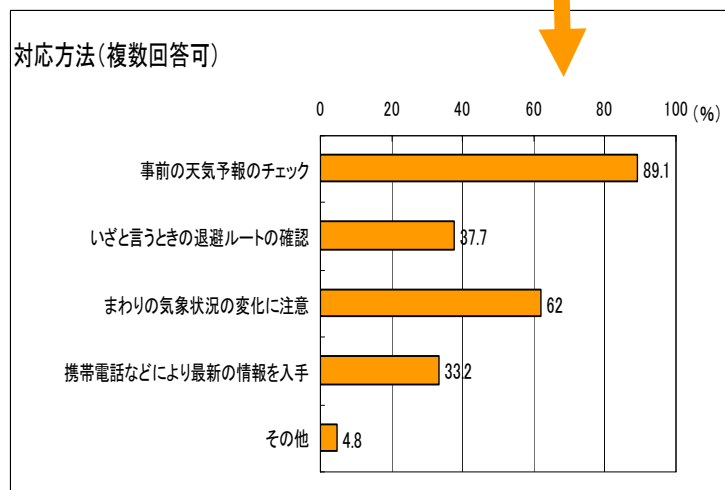
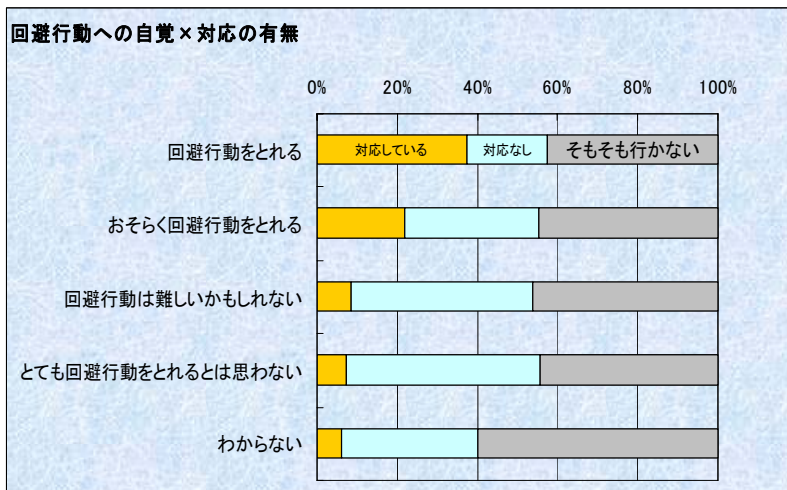
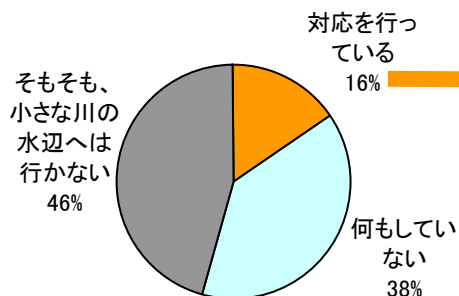
突発的に非常に激しい雨が降り増水する前に、あなたは、川の外に出るなどの回避行動をとれると思いますか。

回避行動への自覚



小さな川の水辺でレクリエーションなどを楽しむ場合、急な雨による増水から身を守るために、気象情報の入手など何らかの対応を行っていますか。

水辺で遊ぶ場合の対応の有無

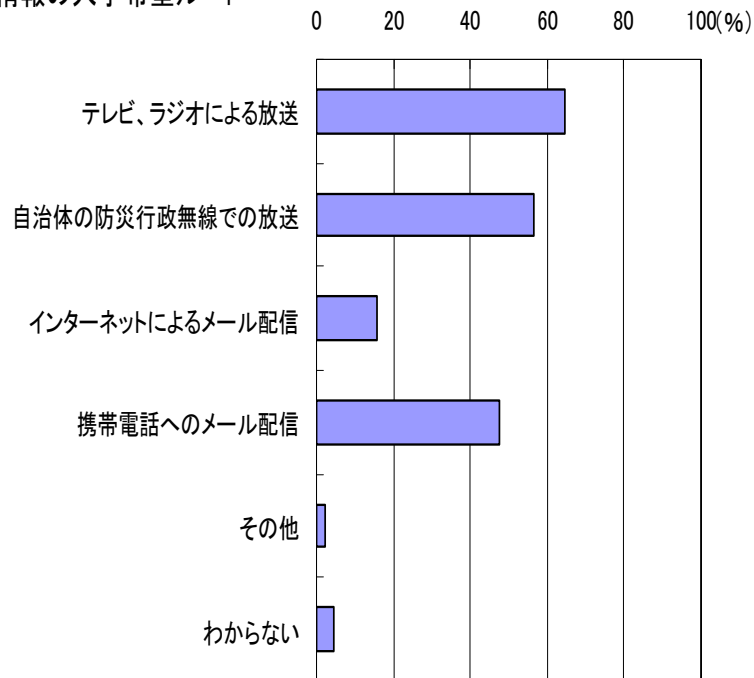


半数近くが「回避可能」「おそらく回避可能」と回答しているが、実際に気象情報の入手等の対応を行っているのはその半分程度。

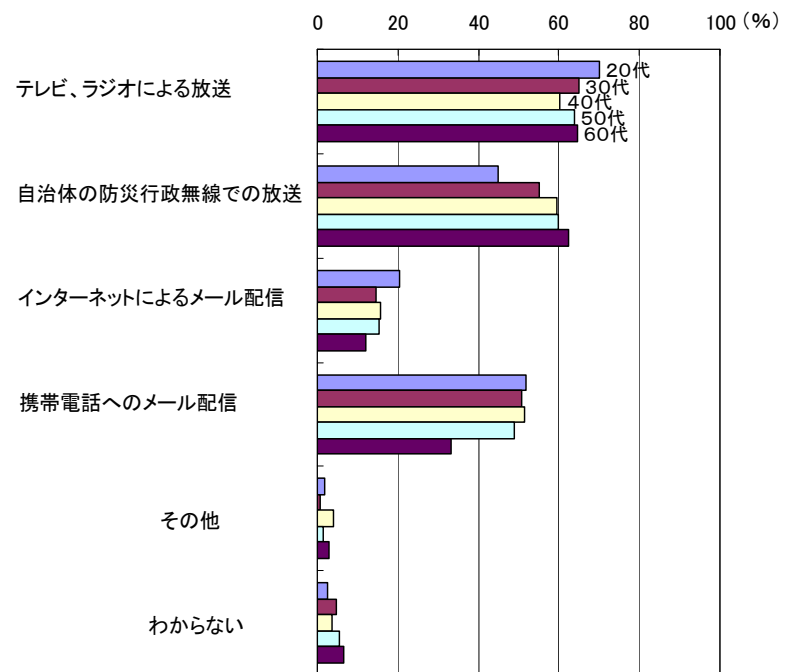
調査項目：危険情報の入手希望ルート

「屋外で活動中に「局地的な大雨」について警戒を呼びかける情報が出された場合、どのような方法で入手できると良いと思いますか。(複数回答可)」

危険情報の入手希望ルート



年齢層別の危険情報の入手希望ルート



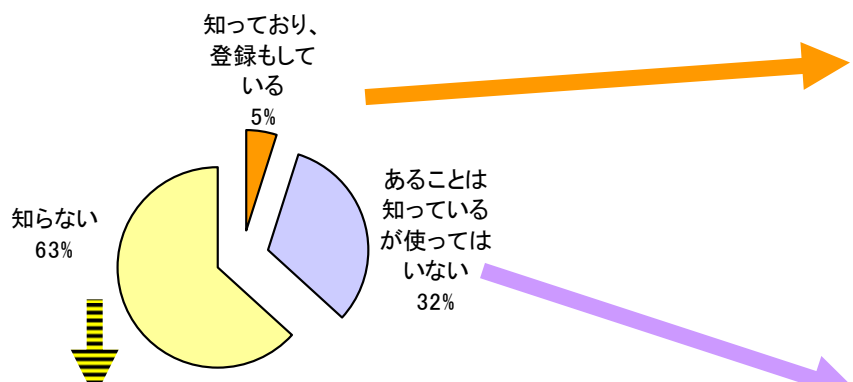
テレビ・ラジオ、防災行政無線による放送、メールによる伝達を希望する方がそれぞれ6割程度。防災行政無線の希望は年代とともに高くなる。携帯電話のメール配信については、50代以下ではほぼ半数が希望するものの、60代では3割程度と少ない。

調査項目：携帯電話向けメール配信サービスに関する認知度

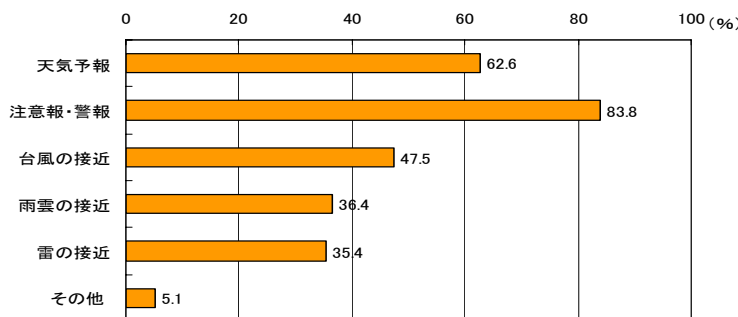
昨夏、天候の急変から身を守るツールとして、気象庁HPで民間の事業者が行う携帯電話サービスを
紹介したので、活用状況を調査した。

「携帯電話向けのメール配信サービスについて、利用している情報に満足していますか。」

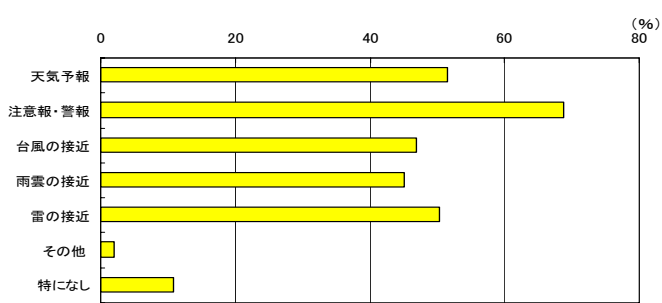
メール配信サービスの認知度



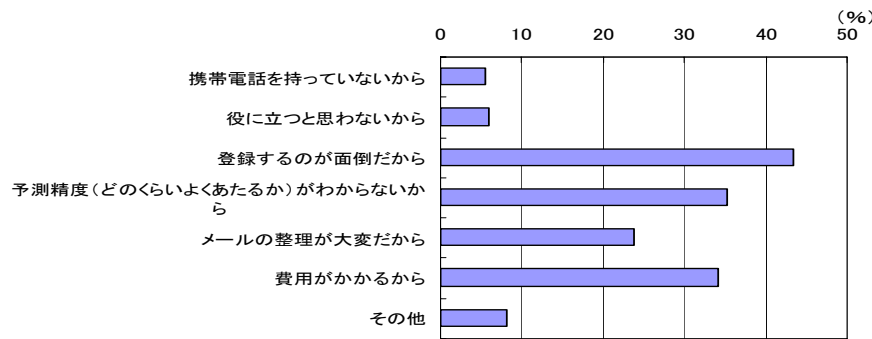
利用情報 (複数回答可)



メール配信サービス 利用したい情報 (複数回答可)



メール配信サービス 使わない理由 (複数回答可)

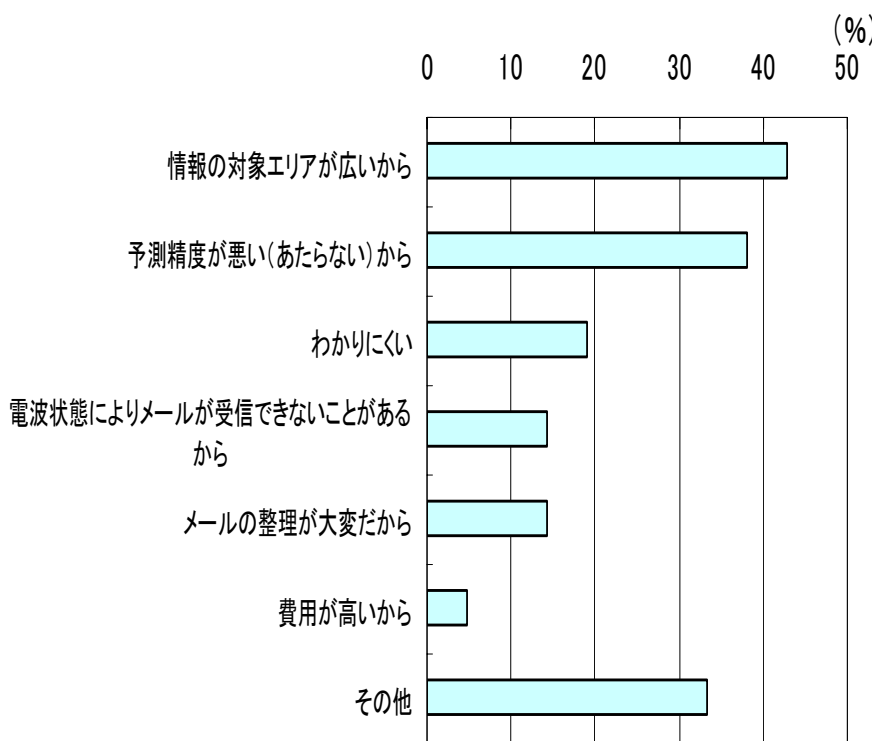


携帯向けメール配信サービスを使っている人は、1割に満たない。
知っているが利用していない人が3割、その理由として、4割が登録する
のが面倒である、と回答。知らないと回答が6割、そのうち7割が注意
報・警報を利用したいと回答。

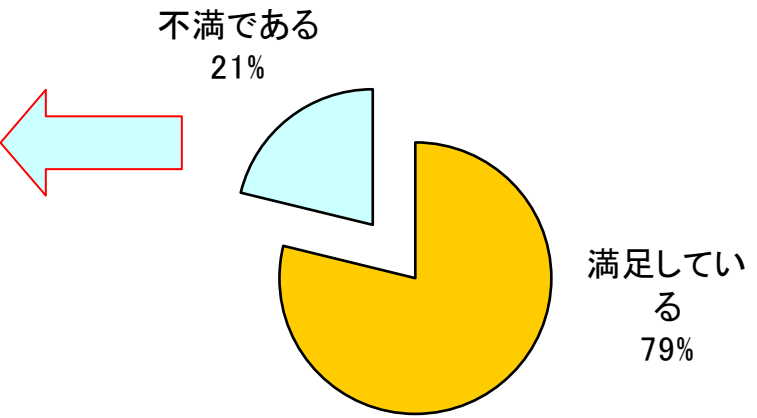
調査項目：携帯電話向けメール配信サービスに関する満足度

携帯電話向けのメール配信サービスについて、利用している情報に満足していますか。

メール配信サービス 不満の理由(複数回答可)



メール配信サービスの満足度



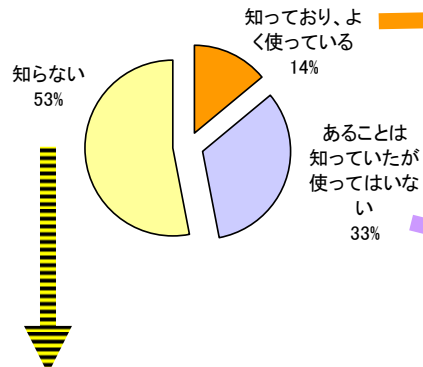
メールサービスへの不満は、情報の対象とする範囲が広いこと、精度が悪いことを理由とした人が3割以上。

認知度（4割）、利用度（1割）ともにまだ高くないが、利用者の8割が満足している。

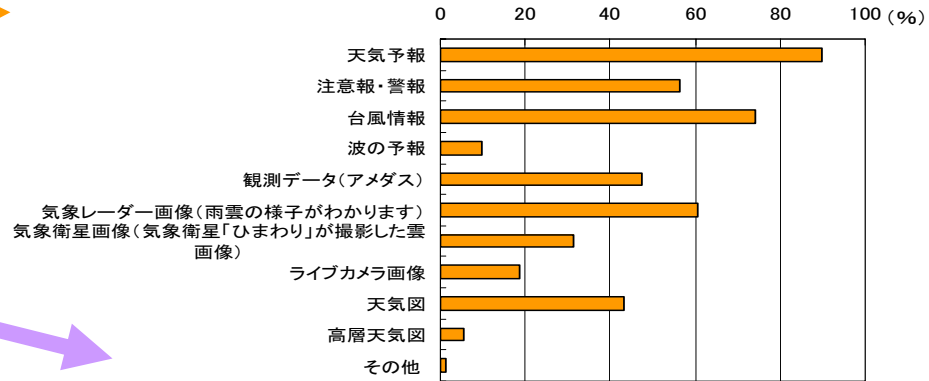
調査項目：気象情報掲載サイト(PC用、携帯電話用)に関する認知度

気象レーダーや雨量計などの最新の観測情報が、様々なホームページや携帯電話のサイトで提供されています。このことをご存知でしたか。

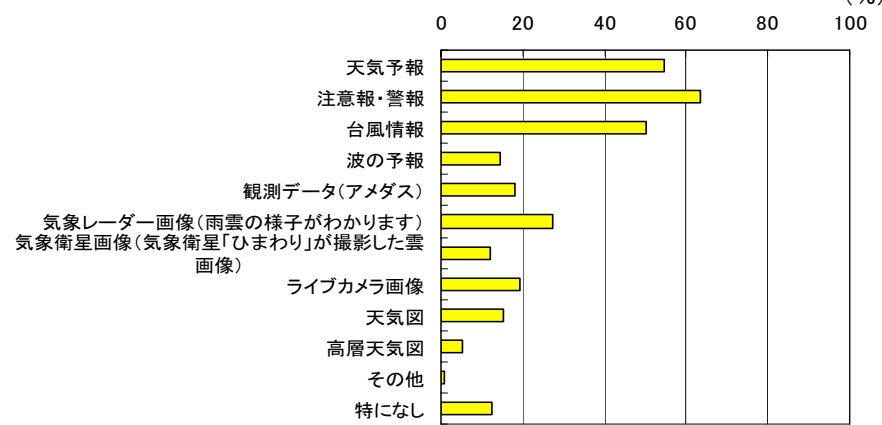
気象情報掲載サイトの認知度



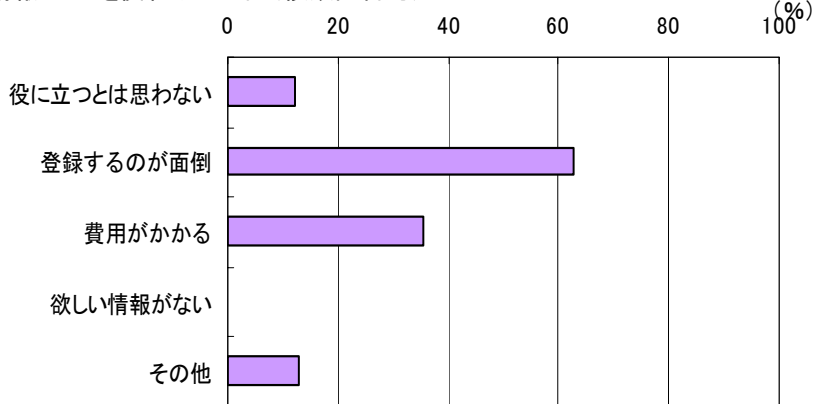
利用している情報(複数回答可)



気象情報サイト 利用したい情報(複数回答可)



気象情報サイトを使わない理由(複数回答可)

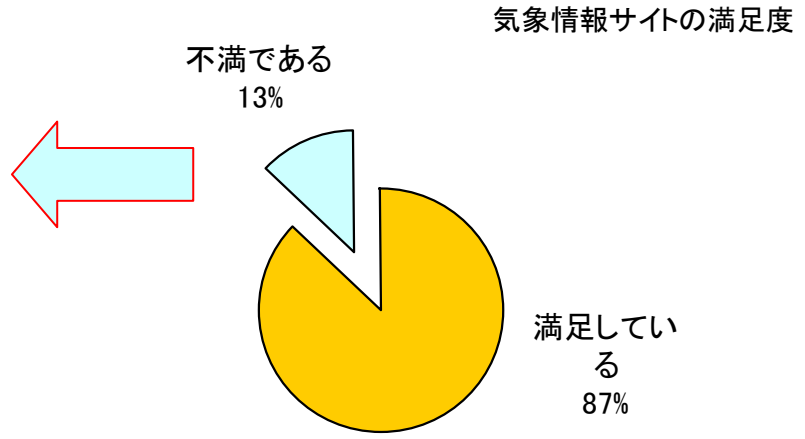
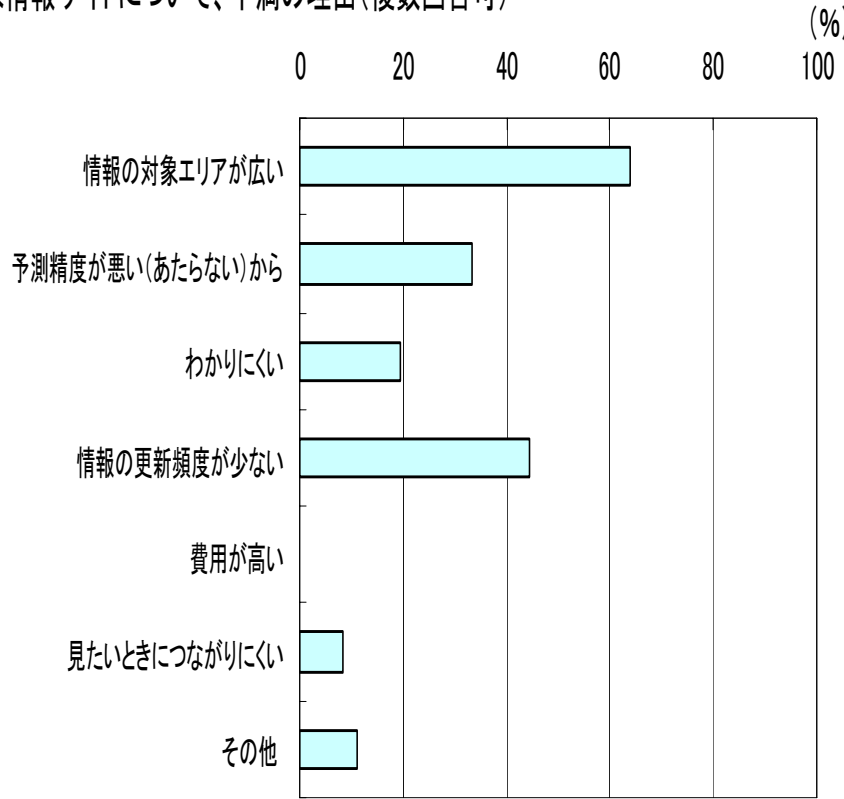


認知度、利用度ともにメール配信サービスより高いが、まだ半数以上の方に知られていない。使わない理由として6割が登録するのが面倒と回答。一方、利用者の9割が満足している。

調査項目：気象情報掲載サイト(PC用、携帯電話用)に関する満足度

気象情報掲載サイト（PC用、携帯電話用）について、
利用している情報に満足していますか。

気象情報サイトについて、不満の理由(複数回答可)



メールサービスへの不満は、情報の対象とする範囲が広いこと、更新頻度が少ないことを理由とした人が4割以上。

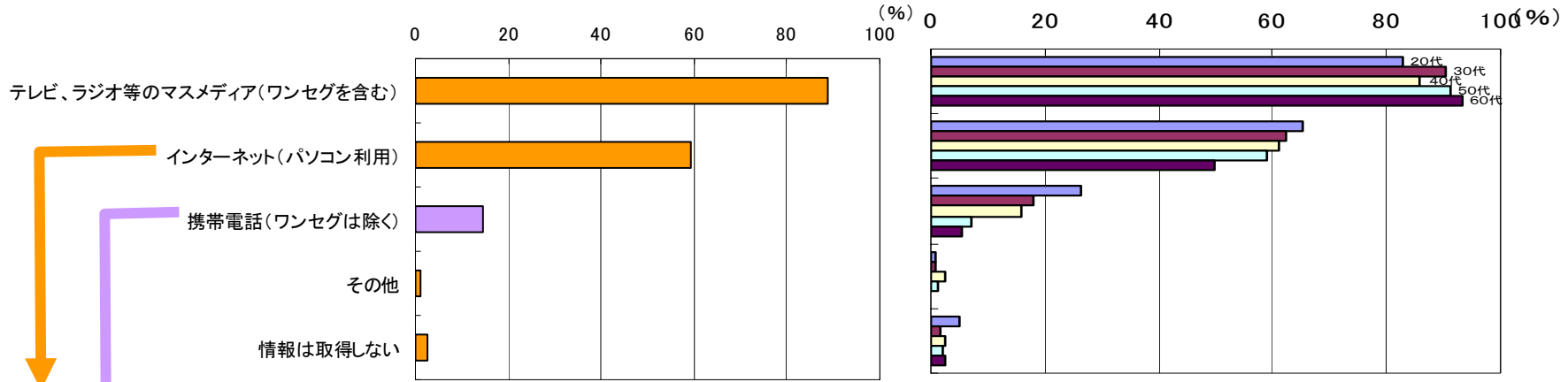
認知度（5割）、利用度（1割）ともに高くないが、利用者の9割が満足している。

調査項目：在宅時の気象情報の入手状況

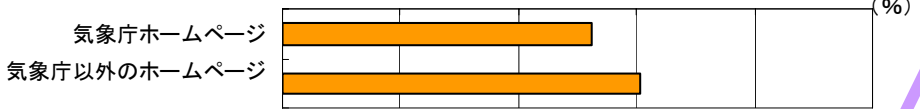
外出時、大雨などの情報は、日ごろどのように取得していますか？
 当てはまるものをすべて選択してください。

年齢層別

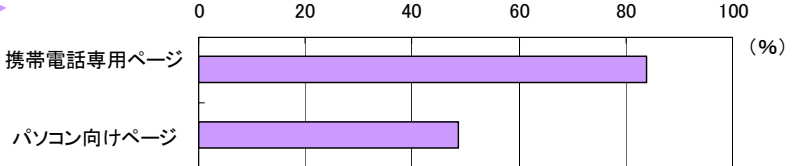
在宅時の気象情報の入手方法(複数回答可)



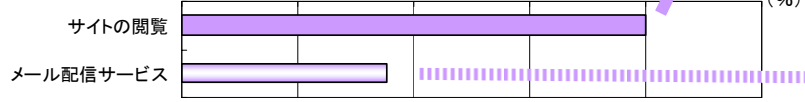
利用するpc向けサイト(複数回答可)



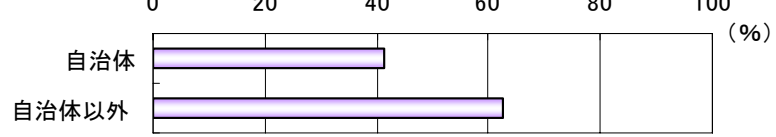
携帯電話で閲覧するホームページ(複数回答可)



携帯電話での情報取得方法(複数回答可)



携帯電話で利用するメール配信元(複数回答可)

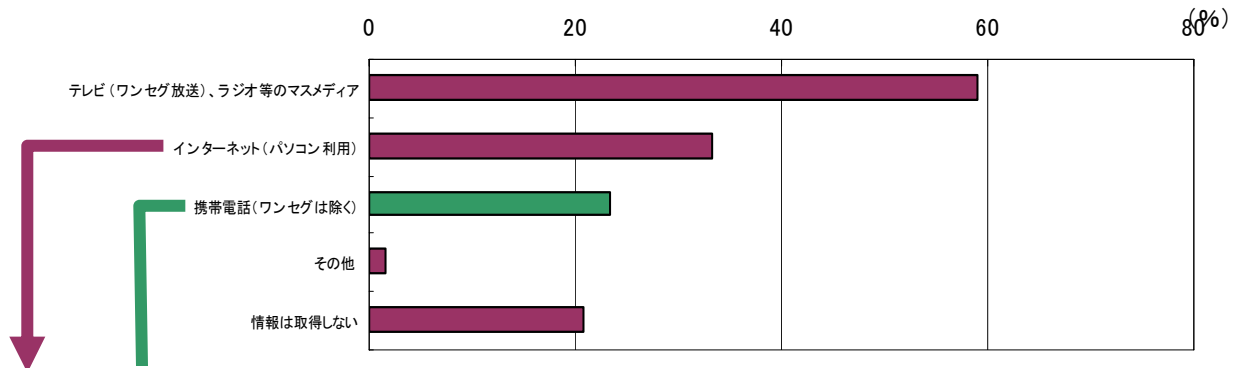


気象情報の入手は9割がマスメディアを利用している。
 携帯電話でサイトを参照する場合、専用サイト利用が8割。

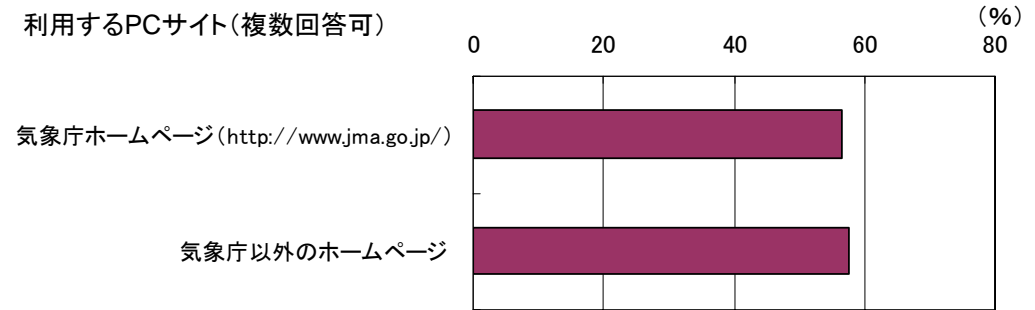
調査項目：外出時の気象情報の入手状況

外出時、大雨などの情報は、日ごろどのように取得していますか？
 当てはまるものをすべて選択してください。

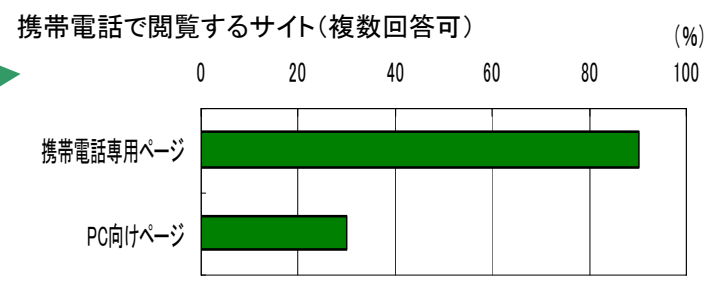
外出時の気象情報の入手方法(複数回答可)



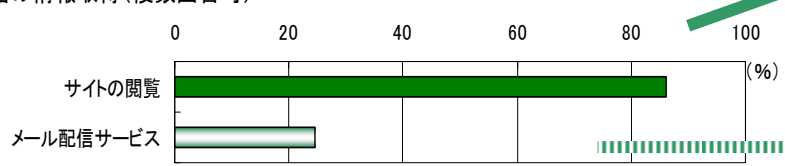
利用するPCサイト(複数回答可)



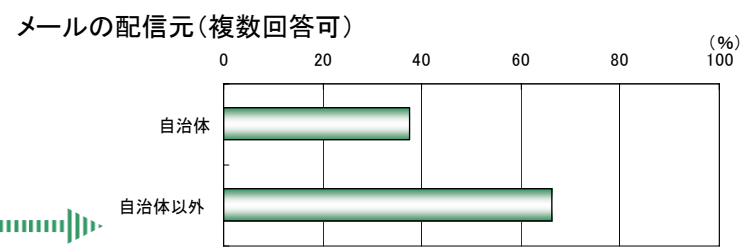
携帯電話で閲覧するサイト(複数回答可)



携帯電話の情報取得(複数回答可)



メールの配信元(複数回答可)



外出時は、全般的に気象情報を入手する方が減少するが、
 携帯電話による入手は増加している。
 携帯電話利用者は専用ページを利用する人が大部分である。